$\frac{\mathsf{KSA}\mathsf{J}\mathsf{J}\mathsf{J}\mathsf{J}\mathsf{J}\mathsf{J}\mathsf{J}\mathsf{L}\mathsf{J}\mathsf{L}\mathsf{L}\mathsf{L}}{\left(\mathsf{KS}-\mathsf{2}\right)}$

構造計算書

2016年1月7日

カジマメカトロエンジニアリング株式会社

1. 準拠規格·基準

(1)建設労働災害防止協会

「建設工事の安全」……建設技術者テキスト(荷上げ構台の項)

(2)建築学会

「鋼構造設計規準・同解説」

(3)「クレーン構造規格」

(作業時の風荷重について)

(4)彰国社編

「建築仮設物の構造計算入門」

2. 使用基準

(1)使用目的 荷の取込み

(2)許容積載量3.8t(3)最大設置高さ200m

(4)暴風時には、架台および手摺部は屋内に引き込むみのとする。

3. 荷重の種類

(1)積載荷重

P=(1+0.05A)Po

P:積載荷重(t)

A:構台の床面積(m²)

Po:許容積載量(t)

(2)自重

荷上げ構台自重 2,650kg

- (3)作業係数は、積載荷重の10%
- (4)水平荷重
 - ①風荷重

作業時風荷重として 16m/s qw=8.5⁴√H

②地震荷重

構台の自重と積載荷重の 20%

4. 積載荷重

積載面積 A=1.816×3.429=6.227(m²)

1回に荷上げする最大荷重 Po=3.8(t)

構台の積載荷重 P=(1+0.05A)Po

 $=(1+0.05\times6.227)\times3.8$

 $=1.3113\times3.8$

=4.983(t)

5. ビームのモーメント

自重による曲げモーメント
$$W_1$$
=1.011(t) ℓ $_1$ =1.971(m) M_1 = $W_1\ell$ $_1$ =1.011×1.971=1.993(tm)
積載荷重による曲げモーメント ℓ $_2$ =1.913(m) M_2 =1.1P ℓ $_2$ =1.1×4.983×1.913 $=10.486$ (tm) M_2 =1.247.9(tm) $=1247.9$ (tm)

6. ビームの応力

1本のビームに作用するモーメントは
$$M_v/2=1247.9/2=624.0$$
(tcm)

$$I250\times125\times10\times19$$

断面二次モーメント Ix=7,340cm⁴ 断面係数 Zx=587cm³ 断面積 S=70.73cm²

 $\sigma_b = Mv/2/Zx = 624.0/587 = 1.063 < 1.6(t/cm^2)$

せん断応力

$$\tau \equiv \frac{W_1 + P}{2 \times 70.73} \equiv \frac{1.011 + 4.983}{2 \times 70.73} \equiv 0.0424 < 0.923 (t/cm^2)$$

7. 水平荷重

(1)風圧

高さ h=0.785+0.25=1.035(m)
長さ b=3.48(m) A=1.035
$$\times$$
3.48=3.60(m²)
 C_D =1.2 H=200(m)として
 P_W =8.5 4 $\sqrt{$ H \times CD \times A \times 2 =8.5 4 $\sqrt{$ 200 \times 1.2 \times 3.60 \times 2 =276.2(kg)

(2)地震荷重

$$P_{H}$$
= (W₁+P)×0.2=(1.011+4.983)×0.2
=1.199(t)=1199(kg)> P_{W} =276.2(kg)
よって、地震荷重により計算する。

1本のビームに作用するモーメントは

 $M_{V}/2 \times 0.2 = 1247.9/2 \times 0.2 = 124.8 \text{(tcm)}$

 $I250\times125\times10\times19$

断面二次モーメント Iy=538cm⁴ 断面係数 Zy=86cm³ S=70.73cm²

 $\sigma_{\rm H}=({\rm Mv/2}\times0.2)/{\rm Zy}=124.8/86=1.451<1.6(t/{\rm cm}^2)$

8. ローラー面圧

ローラー一箇所に作用する最大圧縮力は

 $R=(M_{v}/2)/320+P/2+W_{1}/2=624.0/320+4.983/2+1.011/2$ =4.947(t)=4947(kg)

支圧幅 b=3(cm)

曲率半径 r=10.5(cm)

E= $2.1 \times 10^6 (kg/cm^2)$ \geq \cup τ

$$\sigma_P = 0.42 \sqrt{\frac{R \cdot E}{b \cdot r}} = 0.42 \sqrt{\frac{4947 \times 2.1 \times 10^6}{3 \times 10.5}}$$

= 7627(kg/cm²)

9. 荷台の強度

3本の□100x50x4.5で支えるとして

W= P/3=4.983/3=1.661(t)

断面係数 Z=29.3(cm3)

積載荷重の荷重点スパンを 85cm とすると

M=W(L-85)/4=1.661 × (194.1-85)/4=45.30(tcm) σ_{100} =45.3/29.3=1.546<1.6(t/cm²)

10.ベアリング軸強度

ローラー一箇所に作用する最大反力は R=4947(kg)であるから、この

時のローラー軸に掛かる曲げモーメントは

 $M_R = R \times 5 = 4947 \times 5 = 24735 (kgcm)$

軸径=7(cm)

 $Z=33.67(cm^3)$

 $\sigma_d = M_R/Z = 24735/33.67 = 734.6 < 1600 (kg/cm^2)$

11. 牽引力

ベアリングの摩擦係数=0.001 とした場合

 $\mu = (0.1+3\times0.001)/10.5=0.0098$

ビームの傾きを最大3%とすると

 $F=(P+1.865)\times(\mu+0.03)$

 $=(4.983+1.865)\times(0.0098+0.03)=0.273(t)$

ウインチの定格牽引力=300kgであるから安全である。

12. 指示部建家および支柱の反力

ローラー軸部 4 箇所で支持した場合、張出し側を ${
m Ra}$ 、引き込み側を ${
m Rb}$ とすると

積載荷重 P=4.983(t)

 $\ell_2 = 1.913(m)$

本体重量 G=2.65(t)

ℓ _G=-0.288(m)

Rb = $(P \times \ell_2 + G \times \ell_6)/3.2/2$

 $=(4.983\times1.913-2.65\times0.288)/3.2/2=1.370(t)$

Ra = (P + G)/2 - Rb = (4.983 + 2.5)/2 + 1.370 = 5.111(t)

従って Ra は建家床、Rb 支柱の反力となる